

質問コーナー その2



1. 聖書って、どこに売っていますか。
普通の本屋さんにも売っていますが、キリスト教書店というのが元町と鈴蘭台にあり、いろんな種類の聖書が売っています。もちろん、アマゾンでも買えますよ。教会では貸出用の聖書・讃美歌がありますので、まずは手ぶらでお気軽にお越しください。
2. そちらの教会は、どういう宗派ですか。
私たちの教会はプロテスタント教会です。その中の「日本イエス・キリスト教団」というグループに属しています。
3. お酒やたばこを吸っている人は、教会へ行ってはいけなんでしょうか。
そんなことはありません。どなたでもお越しください。教会は禁酒禁煙を勧めることはいたしません。ただ、神さまのことを知れば知るほど、健康によくないお酒やたばこに魅力を感じなくなる人が多いようです。
4. 私は子どもの頃、日曜学校に行っていましたので、うちの子どもも行かせたいのですが、どうぞ、お連れください。日曜日の9時30分から始まります。お家の方の付き添いもOKです。

教会というと、「敷居が高い」というイメージがあるかもしれませんが、実は誰が行ってもいい所です。近頃は「宗教」というと「怖い」と警戒なさる方も多いですが、私たちの教会は昭和33年から三木市にあり、昨年、礼拝堂を新築し、大塚1丁目から移転して来ました。どなたも安心して通っていただける暖かい教会です。「それじゃあ、一回だけ行って見るか。」くらいの軽い気持ちで見学においでください。「いやいや、知り合いもないのに行きにくい。」とおっしゃる方は、まずホーム・ページをチェックしてみてください。しつこく誘われたり、強制的なことは一切ありません。

お気軽にお越しください。

神さまとの出会い

NO.2



93歳 女性（三木市）

私は大正12年8月29日に6人兄弟の真中に生まれました。関東大震災の3日前です。子どもの頃は泣き虫で恥ずかしがり屋で陰気な性格でした。小学校の上履きは藁草履で、着る物も十分ではありませんでした。校庭には絶えず軍歌が拡声器から流れていました。

高等科卒業後は、金物屋さん1年、電話局の交換室に6年勤めました。その頃に終戦となり、ポナペ島から幸いにも復員して来た隣村の主人との縁談話しがあり、結婚しました。住まいは実家近くの借家で、欠乏ばかりの中で4人の娘が与えられました。その頃の私は、「人は何のために生きているのだろう、きっと意味があるに違いない。」とよく考え込み、また、死を恐れていました。

そんなある夜、太鼓とちょうちん、讃美歌で数人の人がやって来て電柱にビラを貼って帰って行きました。キリスト教の集会案内でした。私は、「ここへ行けば何かあるにちがいない。」と思い、夕焼け空に向って、「神様」と呼びかけたのを覚えています。

教会には山本信二牧師がおられ、古い家の二部屋を通して日曜礼拝が行われていました。先生のお話は覚えていませんが、その部屋の空気の暖かさと清らかさに、「障子一枚隔てて、こんな世界があったのか。」と感動しました。

集会には時折しか行けませんでした。婦人伝道師の大石ナチ先生が時々訪問してくださり、悔い改めについて教えてくださいました。ある日、「そうだ、祈ろう。」と、強く迫られる思いで跪き、神様を信じなかったこと、両親への不満、人に対する批判・軽蔑・羨望・憎しみ等があったことを、次々と導かれるままに神さまにお詫びのお祈りをしました。すると、大きな暖かい腕の中に抱かれているような平安に包まれ、熱い涙が止めどなく流れてきたのです。神さまがわかった瞬間です。

あれから61年、今も毎週の礼拝を楽しみに教会へ通っています。